

# 国の悪政の防波堤となり、県民の暮らし守れ

## 日本共産党新潟県委員会が知事に新年度予算要望

日本共産党新潟県委員会は1月21日、花角英世知事に対して2020年度県予算要望書を提出し、懇談しました。樋渡士自夫県委員長、遠藤れい子県議など6人がこの行動に参加しました。

私は市議会の会議があったので参加できませんでした。県立病院問題や中小河川の防災対策などでの意見・要望を要望書に反映してもらいました。

要望書では、「本県の財政悪化の背景には、長年にわたる過大な公共事業と借金財政、公共事業に依存するゆがんだ産業構造、小泉内閣らしいの地方交付税の大幅削減、労働者派遣法などによる雇用破壊、安定した仕事を求める若者の県外流出と東京一極集中、『平成の大合併』による合併周辺部の疲弊、農業の衰退など、様々な要因が重なり合っている」「消費税増税



花角知事（右側）に要望書について説明する樋渡県委員長と遠藤県議等。

により県経済の冷え込みが懸念されるも、さらなる県民サービス削減・負担増は実施すべきではない」「県政が国の悪政の防波堤となり、柏崎刈羽原発の再稼働ストップ、福祉・医療・介護・子育て・教育などの抜本的充実、中小企業や農林水産業の振興、雇用の改善、防災・減災対策の強化、安心して住み続けられる街づくりなどの推進を強く求める」としています。

【重点・緊急要望】は12項目、【県民の命と暮らしを守る基本要望】は7項目ですが、主要望事項を今号と次号、次次号で紹介いたします。

●柏崎刈羽原子力発電所については、ひきつづき『三つの検証』がなされない限り『再稼働議論はできない』との立場を堅持していただきたい。

UPZN(5330+)における安定ヨウ素剤は、PAN(5+)に準じて事前に個別配布していただきたい、などの点要望。

●医師・看護職員確保対策の推進と、安心の医療・介護の確立については、医師不足が深刻な地域に、国が医師を派遣する制度を創設し、本県にも医師が派遣されるよう国に求めています。

先に厚労省が突然発表した424の公立・公的病院の再編統合提言の撤回を求めるとともに、「新潟県地域医療構想」の具体化にあたっては、地域の実情をふまえ、住民や医療関係者の声を最優先に、在宅医療の充実、回復期・慢性期病床の拡充など、必要な医療体制の確保をはかっています。

また、県立病院は高度・特殊・専門・へき地医療など不採算分野の医療に責任を負い、安心の医療を提供するために欠かせない役割を果たしていることから、「行財政改革」の名による安易な縮小・廃止は行わないでいただきたい。このほか、5点要望しました。



【ロウバイ】再掲。ロウバイ科の落葉樹。漢字で「蠟梅」と書きます。花は半透明の黄色で、近くまで行ったら、あまい香りが漂っていました。花は早ければ、12月にも咲きます。この花も1月の早い時期に咲いた模様です。花言葉は「慈愛」。写真は吉川区村屋にて1月25日、撮影しました。

## 公立・公的病院再編統合問題、総合事務所の機能などで議会報告

26日の「新春のつどい」では、私から12月議会報告をさせていただきました。報告の柱は、公立・公的病院の再編統合問題、総合事務所の機能の変遷と時間外受付体制の変更問題、公の施設の利用料引き上げの背景と問題の3つです。

病院問題では、厚労省の動きに新潟県が追随していることから、党派を超えた大きな闘いで病院を守ることが重要だと訴えました。

総合事務所については、「方式は編入合併でも対等平等に」という市政運営の基本についての合併時の約束に立ち帰りながら、問題点をクローズアップしました。

「新春のつどい」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



# はしづめ法一の活動レポート

No.1945 2020.2.2

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第五九三回

### 一枚の写真

先日、一枚の写真と出会い、心をブルツと揺すぶられました。昔の写真ではありません。昨年秋に撮られた一枚のスナップショットです。

そこには、冬の風よけ設置の作業をしているRさんの姿が写っていました。Rさんはハシゴの上から二つ目の高いところに両足をのせ、何かの道具を使って作業をしていました。おそらく、風よけの骨組みの部分と支え棒となる鉄パイプをつなぐところだったのでしょう。

この写真を見たのは、市内のあるセシモ二ホールの一室に設置された故人の思い出コーナー。写真はモニター画面に映し出された何枚かのうちの一枚でした。私は葬儀が一区切りした、出棺までのわずかな時間帯に、この写真を見せられました。

Rさんの作業写真のことは知ったのは、喪主を務めた息子さん、Hさんの参列者へのお礼の挨拶のときでした。Hさんは父親のRさんと最後に交わした言葉、救急車で病院に運ばれてから亡くなるまでのこと、家族の中でのRさんの仕事ぶりのことなどを話した後、家の北側にある風よけ設置作業について語りはじめました。

Hさんによると、父親のRさんは八〇を超え八二歳になっているし、そろそろ、自分も風よけづくりを覚えなければと思い、昨年の秋、Rさんに教えてほしいと願い出たそうです。Rさんは喜び、「Hが手伝ってくれる」とお連れ合いに報告しました。

言うまでもなく、HさんがRさんと一緒に風よけづくりの作業をするのは初めてでした。一緒に作業をしていて、Hさんはびっくりにしたそうです。というのも、八二歳の父親がハシゴの六、七段までさっと登り、下でハシゴを押さえているときは九段まで登って行ったというのです。身のこなし方が軽く、テキパキと仕事をしている。

高いところが苦手のHさんはその仕事ぶりに感心しました。同時にHさんは、Rさんの背中が思っていた以上に大きかったことを知ったといいます。

Hさんの話を聴いている時、私は何度かRさんの遺影を見ました。Hさんの話を聴いていて、Rさんの顔を見たくなったからです。Rさんの遺影は、桜の花をバックにした笑顔いっぱいの写真ですが、ふだんのRさんの、ありのままの表情が写真に出ていました。

改めてRさんの遺影を見なくなったのは、Hさんの目のせいです。目そのものやさしさも、眼の動かし方も百パーセント父親と同じだと思ったのです。そして、Hさんが話をする時の両足の開き方、手を後ろにもっていく仕草もどこかで見ただことがあるなと思ったら、Rさんと同じでした。すべて父親譲りだったんですね。

冒頭の一枚の写真は、Hさんの挨拶のなかで紹介されました。父親の作業する姿を見て父親のすごさを再認識したというそのときの写真。話を聴いていた私は、すぐにもこの写真を見てみたいと思いました。

Rさんの写真については、家族などとの集合写真はあるけれど、仕事をしているときの、ごく自然なスナップ写真がきわめて少ないとのことでした。それだけに、風よけづくりの作業写真は、Rさんのしっかりとした仕事ぶりを知るうえでも貴重な写真の一枚となりました。

作業中のRさんの姿を撮ったのはたぶん、Hさんだと思えます。ハシゴを押さえながら、下から写真を撮ったのでしょうか。バックには青い空が広がり、農道を挟んだ北側にはオレンジ色の実がついた柿の木も見えます。写真を見ていたら、「おい、ハシゴ、しっかり押さえていてくれよ」というRさんの声が聞こえてきました。

## 山間部でも無雪状態



どう見ても異常です。1月下旬になっても雪がない状態が平地だけでなく山間部でも続いています。

写真は私が32歳の時まで住んでいた吉川区尾神の「オオタ」「ニョウダイラ」（いずれも地名・俗

称）です。普通の年なら、ここは雪にすっぽりおおわれています。3月になって、写真の中央部で雪崩が発生し、土の色が見え始める。そういう風景を見続けてきましたので、いまの風景はとても冬のものとは思えませんね。そろそろ降ってもらわないと……。

## まだエビツルの実が

これも暖冬の影響でしょうか。冬になれば、ツルから落ちてなくなるはずのエビツルの実ですが、1月18日段階で、まだツルについていました。おが家の近くの林のなかでの話です。ただ、もう食べられる状態ではなかったですね。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月22日(水)	1月29日(水)
上越南消防署	0.040	0.047
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.043	0.040
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.050	0.057
高士分遣所	0.050	0.057
名立分遣所	0.050	0.057